第1回知立市総合計画審議会 議事録

令和5年8月24日(木)
午前10時～正午
中央公民館 2階 中会議室

【次第】

1. 市長あいさつ
2. 自己紹介（委員・事務局）
3. 会長及び副会長選出
4. 諮問
5. 策定方針及び策定方法について
6. その他

【出席者】（敬称略・順不同）

鈴木誠、坂本真理子、高橋敦子、永井淳子、三浦祥志、三宅守人、新美文二、越智さや香、高木香津恵、松田斉、野本照人、甲斐春美、山下徹也、石原國彦

【欠席者】（敬称略・順不同）

竹内博之

【事務局】

企画部長、企画政策課長、地方創生 SDGs 係長、地方創生 SDGs 係主事

【傍聴人】 0名

【議事概要】

司会進行：企画部長

1. 市長あいさつ

市長	<ul style="list-style-type: none">• この度は、知立市総合計画審議会の委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。• 知立市のまちづくりにおいては様々な計画がございます。例えば、高齢者福祉であれば高齢者福祉計画、観光であれば観光振興計画、スポーツであればスポーツ推進計画等、各分野において計画を策定しています。その中で、最も根幹となる、上位となる計画が、本日審議会を開催する知立市総合計画となります。• 現在の計画は 2015 年に策定した第6次知立市総合計画です。将来像を「『輝くまち みんなの知立』～安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち～」と設定し、令和6年が計画の最終年度となります。第6次総合計画においては3つの基本方針を掲げました。1 つめは知立駅周辺の整備効果の本市全体への波及です。100年に一度の知立駅整備をしっかりと進めることによって、その効果を知立駅周辺のみならず、市内全域に波及させていこうという目標を定めています。2 つめは子どもや子育て世代の暮らしやすさの向上を掲げています。国ではこども家庭庁ができ、さらに子どもを中心に考えていこうという動きがありますが、知立市においては 2015 年頃から子どもを第一に施策
----	---

	<p>を考えてきました。例えば、学校教育においては全小学校に少人数学級をいち早く導入し、2016年には子ども条例を作って子どもの権利を守る活動を進めてきました。また、子ども議会も毎年のように開催し、子どもからの意見を集めています。そして3つ目は自助・共助・公助が息づく協働のまちづくりです。公助は行政の方でしっかりと対応をしていきますが、防災面や安心・安全面については自助力・共助力が何よりも重要であり、福祉力が高まるように取り組むことにより、地域コミュニティが形成されていると感じています。3つの基本方針と5つの基本理念を踏まえ、第6次総合計画は歩みを進めてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • そうした中で、第7次総合計画の策定におきましては、SDGsやDX等の新たな視点を取り入れていかなければならないと感じています。100年先を見据えた計画を策定するため、委員の皆様には、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
--	---

2. 自己紹介（委員・事務局）
委員名簿の順番で自己紹介後、事務局の自己紹介

3. 会長及び副会長選出
会長：事務局より鈴木誠委員を推薦 → 全員承認
副会長：会長より坂本真理子委員を推薦 → 坂本真理子委員承認

会 長	<ul style="list-style-type: none"> • 愛知大学で地域政策学部の教授をしております、鈴木誠と申します。第7次総合計画策定に向けて、会長職を委嘱されました。 • 非常に重要な計画となりますが、特に地方自治が叫ばれてから、まち・ひと・しごと創生総合戦略が各市町村で取り組まれています。国の号令に関わらず、補完性の原則として、市民のために行政を運営していくためには、市町村行政が重要な役割を担っています。その中で最も包括的で根幹となる計画が総合計画となっています。年々重要性が増していく中で、市民の皆さまのご意見を踏まえて作ることが重要となります。活かしていける計画を策定していくという観点から、皆さまと一緒に審議をさせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
副 会 長	<ul style="list-style-type: none"> • 副会長に選任されました坂本です。 • 経験として、健康増進計画や地域福祉計画、多文化共生推進プランの計画づくりに参加させていただいた経験がありますが、このような高次の計画への関与は初めてですので、大変な責任を感じております。会長の鈴木先生はご経験をお持ちですので、私のできることをサポートさせていただきます。皆様と良い計画を作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

4. 諮問
市長より会長に諮問を依頼 → 市長退席
議事録公開の旨の報告
以後、鈴木会長により会議を進行
5. 策定方針及び策定方法について
事務局より、資料について説明

高木香津恵委員	<ul style="list-style-type: none"> 市民ワークショップの申込みが終わっていると思いますが、申し込み状況はいかがでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> テーマで申込み人数に差がありますが、各回 20~30 人程度の応募状況となっています。
甲斐春美委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査は自身もLINEで回答をしましたが、中学生は学校を通して依頼されているのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> アンケートはLINEや広報ちりゅう、町内会の回覧板で周知をするとともに、学校にも依頼をさせていただき、中学生からも一定数の回答を得られている状況です。
甲斐春美委員	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちから回答が得られているようで良かったです。
山下徹也委員	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定方針について、第6次総合計画から変わった点はどちらでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 前計画と異なる部分は、地方版総合戦略との一体化をするという点です。現行の総合計画と地方版総合戦略は別々に策定しています。 もう1点は計画のコンパクト化です。第6次総合計画は各分野の現状や課題・施策の内容等が細かく記載されており、ボリュームのあるものとなっていますが、上位計画である総合計画は、各課が策定する各分野の計画に影響がありますので、方針に絞って記載していきたいと考えています。
松田斉委員	<ul style="list-style-type: none"> 第6次総合計画の評価や課題等はどうなっているのでしょうか。第7次総合計画に関わってくると考えています。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 第6次総合計画は、令和2年度に改訂をしています。改訂のタイミングで中間評価を実施しており、施策の進捗状況や課題をまとめています。評価結果は、市ホームページで公表しています。 同様の調査を現在実施中であり、第2回審議会で報告させていただく予定です。
山下徹也委員	<ul style="list-style-type: none"> 計画がコンパクト化されるとのことですが、簡単に動画にまとめる等、市民に情報が入りやすいような工夫をされてはどうでしょうか。例えば知立駅の再開発についてはYouTubeがあったりするので、そういったものがあると良いのではないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回の計画は、なるべくコンパクトにして市民の皆さまが手に取りやすく、分かりやすいように取りまとめることを考えています。取りまとめ方は今後検討させていただきます。
高木香津恵委員	<ul style="list-style-type: none"> 自身も様々な市民ワークショップに参加することがありますが、意見がどう反映されているかが分かりづらいため、分かりやすく作っていただけると嬉しいと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップで得られた意見の反映方法は、今後十分に検討させていただきます。 ワークショップの開催後には、結果をホームページ等で公表し、皆さまにもお知らせします。また、審議会でも報告させていただきます。
新美文二委員	<ul style="list-style-type: none"> 策定体制の職員参画・市民参画について、資料の図を見ると行政のウエイトが大きく見えるのが気になります。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 職員参画については、市民の皆さまには大きな柱立てについて検討していただき、職員はその柱に沿った実施計画・事業を検

	<p>討していきたいと考えています。</p>
新美文二委員	<ul style="list-style-type: none"> • 数年前の知立駅周辺街並みデザインプロジェクトの時に、市民の考えと職員の発想に違いがあり、行政主導で進んでいる感じがしました。ワークショップにも、職員が半数程度いて、その他は学生、各種団体等で、市民の意見が本当に反映されているのか疑問に感じました。 • 15代も続いて知立に住んでいますが、若い人は知立に住み続ける人ばかりではありません。市民の意見がきちんと反映されるように気を付けていただきたいと思います。 • 我々商工会の意見もあまり反映されていないと感じます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • ワークショップや審議会委員の意見を最大限尊重させていただきたいと思っております。
甲斐春美委員	<ul style="list-style-type: none"> • 審議会委員をするにあたって、知立市のことを調べてきました。知立市の平均年齢はとても若いですが、しかし、何もしなければ平均年齢はどんどん高くなってしまいます。 • 私は知立市に家を建てて、知立市に愛着を持っていますが、子どもは親が知立にいただけで、果たして愛着を持っているのか疑問を感じます。子どもたちが、知立市に愛着を持てるような何かが必要だと思えます。 • ワークショップを学校等で開催することにより、多くの子どもに知立市をどうしていきたいか等の意見を聞くことができるのではないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 今回のアンケート調査では、中学校に依頼して、中学生から回答をいただいています。若い世代の意見をかなり収集できており、属性に応じたクロス集計をすることで、若い世代の意見を収集できると考えています。 • 今回、ワークショップの開催回数を増やしており、参加者も様々な世代の方から申込みをいただいています。 • 学校から依頼をいただき、出前講座を実施しています。総合計画を策定する取組とは異なりますが、今後もそのような取組から若い世代の意見を収集していきたいと考えています。
甲斐春美委員	<ul style="list-style-type: none"> • テレビ番組で、子どもたちが観光大使を務めている島がありました。島のことを教えるのは島の大人で、その子どもたちが大人になった時に島に戻ってくるような構図ができていました。 • 地域包括ケアシステムと言って、外から来る人というより、今いる子どもたちに支えてもらえるような構図が生まれると良いのではないかと考えます。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 市民がまちづくりに参加するという事に繋がると思えます。 • 具体的な事業として、取組を検討していきたいと思っておりますので、そのようなご意見をどんどんいただきたいと思えます。
会長	<ul style="list-style-type: none"> • 第7次総合計画に向けた期待が多く出ていますので、策定方針や策定方法に関する意見は終わりにしまして、第7次総合計画策定に向けた課題や新たに取り組むべきことについてご意見を頂きたいと思えます。 • 市には、柔軟に市民の意見をくみ取ることと、意見をいただいた皆さんに、着眼点を出して発言をしやすいような入り口を明確にする努力をしていただきたいと思います。このような審議会でも、積極的かつ柔軟に情報を出していただき、審議しやすい

	<p>いようにしていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連携企業の声や、外国人市民の声など、紙面上は過不足があることから、その辺りをこれからの調査で補完していただきたいと思います。 • 今回の計画策定に向け、チャレンジすべきことや反映すべきこと等のご提案を述べていただきたいと思います。計画策定に向けた重要なヒントとなりますので、自由にご意見をいただきたいと思います。
石原國彦委員	<ul style="list-style-type: none"> • 農業委員会としての意見を述べたいと思います。 • 総合計画は知立市の最上位計画であり、総合計画に基づいてそれぞれの計画が策定されます。第6次総合計画は第1章から第6章で様々な分野について具体的に記載があります。第7次総合計画で記載量が少なくなってしまうと、各分野の計画策定が大変にならないかという懸念と、総合計画として記載すべきことを精査した上で整理することをお願いしたいと思います。 • 都市計画マスタープランが策定され、企業誘致が進められています。企業誘致をしていく中で農地を企業用地にしていく必要があり、農地が減っていくこととなります。現状では、市域1,631haのうち、4分の1以下しか農地がありません。都市計画マスタープランに従って企業誘致が進んでいくと、さらに農地が減ることが危惧されます。将来的に農業政策にどう取り組んでいくかを検討した上で、計画に反映していただきたいし、都度意見を申し上げたいと思います。
山下徹也委員	<ul style="list-style-type: none"> • 市民の意見を取り入れていただきたいと思います。市民が参画したくなるような取組を期待します。自ら審議会に参加する私のような市民は少ないと思うため、全く興味がないような市民も巻き込めるような活動をして、計画策定をしていただきたいです。
甲斐春美委員	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちが小さなころから知立市に愛着を持てる何かを期待します。知立市の歴史等を学ぶ授業はありますが、それを披露する場があると、より愛着に繋がると思います。
野本照人委員	<ul style="list-style-type: none"> • アンケートで中高生の意見をしっかりと聞いているとの話でしたが、意見を収集できる年齢層に濃淡があるため、不足したところは追加で聞いていただきたいと思います。 • 家を探すときに、知立市以外で探している人も多いので、知立市に住みたくなるようなまちになると良いと思います。
松田齊委員	<ul style="list-style-type: none"> • 目標とする未来の考え方について、自身は他市に住んでいますが、知立市は交通の拠点となっているという良いイメージがあります。一方で、知立駅から降りて遊びに行くイメージが少ないです。地元の方が住み良さをどこに感じているのかをしっかりと把握していただき、総合的に魅力ある市を目指していただきたいと思います。
高木香津恵委員	<ul style="list-style-type: none"> • 当事者を巻き込むことをしていただきたいです。子育て世代や市民活動をしている人等に対して、広く声をかけていただきたいと思います。 • 情報をどのように伝えるかという観点から、LINE以外にも、例えばちりゅうこどもフェスティバル等のイベントで報告会をするなど、より多くの人に伝える機会を設けて、情報に触れら

	<p>れるように工夫していただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 策定体制について、市民と職員が関わる場所が見えてこないと思いました。策定スケジュールの中にも、職員の動き（勉強会）が見えると良いと思いました。
越智さや香委員	<ul style="list-style-type: none"> 外国人住民の意見がアンケートやワークショップで把握できているのかが気になります。外国人住民は知立市では7%と高い割合を占めているので、彼らの意見もきちんと反映されるようにしていただきたいと思います。 外国人住民も一市民であるため、多文化共生の観点以外からも、子育てや高齢化等の視点からも考えていけると良いと思います。外国人住民と言っても、日本で生まれて日本しか知らない子どももあり、そのような子どもたちがいるということも考えていけると良いと思います。
新美文二委員	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定において、財源が課題としてあげられますので、考えていく必要があります。 コンサルに助言をもらうことは良いことですが、知立市としての考えをまとめていただきたいと思います。 このような会議では子育てや若い世代に関する意見が多く出ますが、高齢化社会において、「幸齢化」とするために、高齢者に優しいまちであることも考えていただきたいと思います。バランス感覚が非常に重要だと考えています。 知立市はコンパクトシティで、災害が非常に少ないのが魅力だと感じています。伊勢湾台風が起きた際には、知立市では困るくらい多くの支援物資が届いたという出来事がありました。大きな山や川が無く、海もなく、災害が少なく、交通の要衝であるという良いところがある一方で、イチオシの魅力が少ないので、魅力を高めていけると良いと思います。 知立駅の高架化は総事業費1千億円を超える大プロジェクトをしているのに、駅周辺がどのようなまちになるのか関心度が少ないと感じます。 第6次総合計画の将来像は、第5次から引き継がれており、自身は当時の策定に携わっていました。磨き上げ、ブランディングしていくことが大事だと思います。
三宅守人委員	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少になっていく中で、町内会としても加入数の減少が始まっています。コンパクトシティの取組をしていかなければならないとつくづく感じています。
三浦祥志委員	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが住みたくなくなるという視点も入れていただきたいと思います。 社会教育の中では、地域学校協働活動が盛んになっており、南小学校区をモデルとして、取組を始めています。南小学校では、既にコミュニティがあり、子どもたちの活動に協力していくという体制が取られています。それを、小学校だけでなく、中学校にも広げて、子どもたちを中心に地域が協力できる体制が取られるようにしているそうです。今までは地域から学校に声をかけることが多くありましたが、子どもたちが成長できることを地域で考えていけると良いと思います。
永井淳子委員	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのご意見をうなずきながら聞いていました。 障がい者団体を代表してこの場に座らせていただいています。

	<ul style="list-style-type: none"> • 知立市人にやさしい街づくり推進協議会、文化芸術推進協議会等に委員として参加しており、どの分野においても、大元の考え方は一緒だと感じました。皆さんが願っていることは、住みやすい・安心ということで、10年先も続けられる計画とする必要があると感じます。最近、インクルーシブ公園や駅前開発に携わっている方の話を聞く機会がありました。新地公園では樹木を切ってしまうという意見も出ましたが、切ってしまった木は10年では大きくならないという意見が印象的でした。市内の中学校出身ですが、中学生のころは小さかった桜が、今では大きくなっているのを見ます。樹木の老朽化による危険があるため、樹木を植えたくないという意見もありますが、老朽化を見据えて、市民の居場所を計画する必要があるのではないのでしょうか。 • 名古屋大学名誉教授の蔭山先生がよくおっしゃるのは、一回の経験で満足してはならない。計画は絵に描いた餅ではいけないということです。ワークショップを開いたり出前講座を開いたりというのは、一つの手だと思いますが、本当にためになる計画にしていけると良いと感じます。 • ハードの面から、駅前開発は完成したら感動されると思いますが、ソフト面は目に見て分かりづらく、評価しづらいため、うまく分かりやすい言葉で表現をしていただきたいと思います。難しい言葉は通じにくいことも多いので、かみ砕いた表現をしてパブリックコメント等を経て、食べられる餅の計画にしていきたいと思います。
高橋敦子委員	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉の面でお話をさせていただくと、誰一人取り残さない福祉を目指しています。これまでに、人権擁護委員や教育委員をさせていただきましたが、ゆりかごから墓場まで、一人ひとりが大事な人であるということを感じることができるようなまちであってほしいと思います。 • 福祉サービスを待っているだけでなく、ご本人とご家族とが一緒になって考えて、明日に未来を持てる活動を、人としていきいきとできるように、職員一同頑張っているところです。知立市はボランティア団体や市民活動団体が150以上あり、活躍されています。総合計画では、知立市でこのような活動ができるということをお年寄りになっても貢献できるということ、是非とも発信できるまちであってほしいと思います。 • とにかく人を大事にする、一人ひとりが輝ける計画を立てられればと思います。
副 会 長	<ul style="list-style-type: none"> • 多分野からのご意見を聞くことができ、非常に視野が広がりました。 • 様々な意見が出ましたが、特に共通していたのが住民参画をどうしていくかという意見でした。声を出しにくい方の中にも、その問題について詳しい当事者がいらっしゃるため、その意見をどう聞くのか、代弁するのかが重要だと考えています。 • 職員の参画についてです。私が勤めている大学は長久手市にあります。全国的にも住みやすいまちとして有名です。この20年で住みやすいまちのイメージが定着しましたが、大きく変わった要因は、市長のリーダーシップもありますが、市民の活動が大きいです。市民ワークショップが徹底的に開催され、

	<p>1回で終わらず、何度も続けることでまちづくりに関わる住民が増えてきました。職員もワークショップに関わることで、影響があったと感じています。以前は行政主導なところもありましたが、市民の活動によって職員も学びがあったようですので、ワークショップに参加するような、学ぶ機会があると良いのではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 知立市の魅力発信については、今ある魅力を発信することが重要です。長久手市では、住みやすいまちであることが全国発信されています。外からの評価を受けることが、中にいる人の誇りを育てていくことにもなります。知立市民ではありませんので、外の目で、知立市の人が気づかないことも話していきたいと思えます。 • 知立市は外国人住民も多いです。多文化という分野は非常に面白く、魅力に繋がるキーワードになると思えます。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> • 本日の皆さんの声を、計画策定に反映していただきたいと思えます。 • 委員の皆様をお願いしたいのが、行政との対話や小さな提案をしていただき、小さなワークショップを開いて、計画策定に届けることをしていただきたいと思えます。 • 審議会の委員は、計画策定を進めていく重要な仕事を担っていますが、この場で意見を述べるだけでなく、一市民としても、各団体としても、声を届けていただきたいと思えます。特に子育て中の方や、入院中の方等、声を上げづらい方や声を挙げたくてもそのような余裕がない方の声を聞きたいと思えます。サイレントマジョリティー・声なき声を逃さず、計画に反映するかが重要だと考えています。 • 審議の場ではペーパーで意見を出されることが多いですが、動画を撮って、共通のプラットフォームにアップして共有できると良いと思えます。生の声としてのリアリティが有効だと思えます。 • みなさまからの声をしっかりと受け止めて、会議を進めていきたいと思えます。

6. その他

事務局より次回以降の会議日程のお知らせ

第2回 令和5年12月13日(水) 午前10時～正午

第3回 令和6年3月7日(木) 午前10時～正午

事務局より委員報酬のお知らせ

以上